2018年3月
第42号

公認会計士 三田会

会　報

会報

公認会計士三田会

目　　次

ご挨拶 …… 1
公認会計士三田会会長／池上玄

分類の世界 …… 2
慶應義塾大学経済学部長／池田幸弘

約４年間の浪人を経験して …… 3
衆議院議員／佐藤公治

慶應義塾とのご縁 …… 4
相談役／後藤順子

新たな挑戦 …… 5
事務局補佐／渋佐寿彦

会計士って何だろう？ …… 6
副会長／米田恵美

公認会計士としての未来 …… 7
新人世話人／芦川昇平

新たな世界で感じていること …… 8
新人世話人／古作祐真

公認会計士としての１年を終えて …… 9
新人世話人／上田真士

会計士三田会の一員として …… 10
新人世話人／渡邉紘子

公認会計士三田会の皆様へ …… 11
新人世話人／大津青葉

ワシントン大学の短期留学を通じて …… 12
新人世話人／濱田和輝

会計士としてのこれまでを振り返って …… 13
新人世話人／藤澤大志

公認会計士試験の状況 …… 14
連続43年間、合格者数首位を堅持

公認会計士試験　大学・年度別合格者数一覧表 …… 15

総会／新人歓迎会 …… 16

ゴルフ報告 …… 17

秋季研修会 …… 18・19

役員一覧 …… 20

公認会計士三田会・会則 …… 21

公認会計士三田会
会長
池上　玄
昭和52年商学部卒

ご挨拶

2017年3月に、山田辰己前会長の後を継いで、公認会計士三田会会長に就任しました。会長就任に当たりまして、一言ご挨拶申し上げます。

私は、昭和52年に商学部を卒業し、大手監査法人で海外駐在経験を含む40年近くの間、主に監査業務を行いました。監査法人退職後は、会社の社外役員、日本公認会計士協会の相談役などをしております。46歳から15年間、日本公認会計士協会の理事、常務理事、副会長を務めましたが、その間、国際会計士連盟（IFAC）理事・国際監査保証実務審議会（IAASB）理事・アジア太平洋会計士連盟（CAPA）ボードメンバーなどを兼務したことにより、少しユニークな経験をしてきております。

近年、公認会計士を取り巻く環境は、大きく変わってきています。企業のグローバル化の流れを受け、国際的に会計・監査の基準の統一化が進んでおり、また、監査の品質をより高めていくことが求められています。

公認会計士の業務の中心は、資本市場が有効に機能するために役立つ監査業務ですが、従来のアドバイザリーや税務業務に加えて、最近では地方公共団体や非営利法人といった公的・非営利の分野にも、業務範囲が広がってきています。また、一般企業に勤務する公認会計士も増加しています。

このようななか、これまで43年にわたって公認会計士試験の合格者数のトップを維持してきた慶應義塾大学は、日本の公認会計士制度の発展に重責を担っていると言っても過言ではないと考えます。事実、塾出身の公認会計士は、社会の多様な分野で活躍しています。このような塾出身の公認会計士が集い、お互いを知り、情報交換をし、そして、懇親できる場として、公認会計士三田会は役割を果たしてきました。これまで、多くの諸先輩が、公認会計士三田会の活動に参加し、三田会の存在感を高めてきました。公認会計士三田会は、多くの若い公認会計士の皆さんの参加も得て、毎回集まる会員の数も150名を超えています。

私は、公認会計士三田会が果たしている役割を改めて認識し、公認会計士三田会の発展に寄与していきたいと考えています。春と秋に開催する年2回の集いには、ぜひご参加いただきたく思います。皆様のご協力をお願い申し上げます。

慶應義塾大学
経済学部長
池田　幸弘
昭和57年経済学部卒

分類の世界

経済学と会計は、しばしばそう言われますが、似ているようで非常に異なった世界を形作っています。そういう分野から遠い方々から見れば、同じようなものに見えてしまいますが、その実大きな違いがあります。

公認会計士三田会の会報に記すには、あまりに初等的ではばかられますが、初歩の段階で重要なのは、やはり簿記上の仕訳でしょう。

やや超越的な言い方をすれば、仕訳は分類です。あるお金を負債として認識する。そして、そのタイムスパンは長いのか、短いのか。当該百貨店が発行した商品券は、その百貨店にとっては何なのか。(←負債ですよね。)
これらはすべて分類の問題になります。

科学の歴史を紐解くと、そこにはさまざまな変化や進化があります。一つには、経験的な事実とは異なることからくる既存の理論体系の見直しがあります。しかし、経験的な事実とは直接に関係がなくとも、分類そのものの枠組みが大きく変化する局面もあります。そして、それは人間の知の体系に大きな変化をもたらすのです。

貸借対照表の右左は常に一致します。経済学者の用語でいえば、恒等式ということになります。そして、経済学者は一般にこの恒等式なるものをあまり評価しません。

わたくしはずいぶんと長い間この問題を考えてきましたが、これはあまり適切な判断ではないといまでは考えています。たしかに、恒等式はそれ自体としては反証に服するものではありません。経済学者の恒等式にたいする軽視もおそらくはここに端を発していると考えられます。

家にある服をおとな用のものと子供用のものに分類し、それぞれを数え上げる。上記の例ですと、負債が短いか長いかで、その分類を別に考える。こうした行為自体は単純なものではありますが、その実人間の認識そのものを示しているともいえます。このような認識は人間の知の体系のなかでは小さくない役割を果たし続けています。

経済学の分野でも、社会会計なる分野は例外的に会計的思考からの影響を強く受けております。なぜそうなのか、どういう経緯がその間にあったのかは、わたくしのような経済思想の研究者を魅了する主題です。社会会計は、マクロ経済学の一翼を担っておりますが、それを適切な形で理解するためには、簿記や会計についてのコモンセンスを身に着けておく必要があるとわたくしは考えています。それを踏まえない社会会計のデータ解釈は大きな誤りを含む可能性があります。

分類の知を重要な一部分として含む会計学の発展を念じ、そしてそれに立脚した社会的な説明(Accounting)を担うみなさまにおおいなる敬意を表する次第です。

衆議院議員
佐藤　公治
昭和58年法学部卒

約４年間の浪人を経験して

昭和58年に法学部政治学科を卒業しました佐藤公治と申します。公認会計士三田会の池上会長様はじめ皆様におかれましては様々な分野におきましてご活躍をされ、特に日本経済の発展にご尽力されておりますことに敬意と感謝を申し上げます。

またこの度、この会報に寄稿する機会を与えていただき、心よりお礼を申し上げます。

私は、昨年10月に行われました第48回衆議院総選挙にて約4年ぶりに国政の場に復帰させていただきました。私の選挙区は広島県の尾道市、三原市、府中市、庄原市、三次市、神石高原町、世羅町を中心とした中山間地域を抱え、農業と漁業そして中小企業が地域経済を支えているところです。

浪人をしておりました約4年間は、地元選挙区内をくまなく歩きまわり、地域の皆さんの意見に耳を傾け、改めて郷里が持つ可能性、また課題を確認する日々を過ごして参りました。

私の政治理念は「郷里の暮らしが良くならずして日本の繁栄はない」であり、そのための政策を実現することが使命だと思っております。

しかしながら、今の政治は地方創生と言いながら、郷里の暮らしや地域経済への効果は見受けられず、報道で言われている好景気はとても実感ができる状況ではありません。特に中小企業の皆さんからは、消費税率引き上げ分を価格に転嫁しにくい環境下で、ますます収益が圧迫されることへの対策に大変苦慮されております。

それは、行き過ぎた都市の一極集中と地方との格差が地方経済にもたらした要因の一つと言っても過言ではなく、いま一度、その転換を図るべき時期に来ていると私は考えます。

そしてそのことは、日ごろより会社経営を身近に見られている公認会計士の先生方が一番お分かりだと思います。

「いのち」「暮らし」「地域」の三つを守り育てることが私は政治の最優先課題だと位置づけ、「自立と共生」を座標軸に、人と人、人と自然、そして広くは日本と世界が共生する社会を目指して活動をしてまいります。

最後に、世界規模で刻々と変化する経済の中で、企業情報の透明性や説明責任、あるいは企業倫理に対する社会の期待は高まるばかりです。そしてコーポレート・ガバナンスや内部統制強化への取り組みなど、公認会計士の先生方に求められるものは更に高まるものと理解しております。加えて、公認会計士の先生方には、企業の、財務書類の監査又は証明はもちろんのこと、中小企業経営の良き相談者として、その豊富な知識・見識を活かして日本経済をけん引していただくという役割がますます重くなるものと思います。どうかより一層のご活躍をご祈念申し上げ、引き続きご指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

公認会計士三田会
相談役
後藤　順子
昭和56年経済学部卒

慶應義塾とのご縁

2014年11月から、慶應義塾の評議員を務めています。評議員会は塾の最高意思決定機関です。評議員数は約100名で、教職員と塾員で構成され、2か月に一度三田に集まって、塾の事業計画、予算、重要な資産の取得や処分、重要な規定の改廃、重要人事等について審議しています。

また、2017年2月から、学外理事13名のひとりにも選出していただいています。理事会は毎月開催され、塾務に関する決定を行い、評議員会に上程する議案について、より詳細な審議を行っています。理事会は評議員会に比べるとぐっと少人数になりますので、自然とより活発な意見交換の場となり、理事間の距離も近くなります。事業計画策定や資産の取得等の検討にあたり、経営者等としての豊かな経験を塾の運営に生かし、母校をより良くしたいという理事の気持ちがよく表れる場だと感じています。

その他、2015年から法務研究科（ロースクール）の運営委員にも任命されています。国家資格に関連する教育という意味では公認会計士試験の受験者数増加や若手の人材育成と共通の課題認識があり、大変勉強になります。

結果として年間20回程は三田に通っており、非常に不真面目であった大学生時代よりも余程熱心に塾に関わっています。通学していて感じるのは、外国人学生や遅くまで熱心に学ぶ学生が増加して見えることです。2014年に、文部科学省のスーパーグローバル大学創成支援事業として、慶應義塾大学の「実学（サイエンス）によって地球社会の持続可能性を高める」構想が採択されました。少子高齢化、生活・経済・地政学的な面でのリスク増大、新たな価値の創造というグローバルの課題に真正面から切り込むために、「長寿」「安全」「創造」の３つのクラスターを構築し、これまでの学部・研究科を横断する形で、専門分野における最先端の研究を学際的・国際的に応用する文理融合の研究を進め、その成果を世界に発信しています。このようなクラスターでの学生の育成には、Global Interdisciplinary Coursesが大きく貢献しています。これは外国語で教える全学共通のコースで、学部の枠を超えて、国内外の学生が少人数、双方向型で学びあうものです。この他英語のみで学位を取得できるコースを複数の学部で用意する、留学生と国内の学生が共同生活を行う寮を拡充するなど、国際的に塾の魅力を高めるための努力が重ねられています。

環境の変化に柔軟に対応するために、強みを生かして組織を果敢にトランスフォームしていく塾が、多くのグローバル人材、イノベーション人材を輩出し、その中から公認会計士の世界でも活躍する人材が出てくることを期待しています。

このような塾とのご縁は、そもそも公認会計士三田会の活動から始まっています。ご縁とは不思議なもの、ありがたいものですね。

公認会計士三田会
事務局補佐
渋佐　寿彦
平成17年経済学部卒

新たな挑戦

公認会計士三田会の皆様には、平成15年の入会以来、いつも御指導をいただきまして誠にありがとうございます。僭越ながら寄稿の機会を頂戴いたしましたので、簡単ですが近況の報告をさせていただければと存じます。

私は公認会計士試験合格後より大手監査法人に勤務しておりましたが、平成19年に退職し、現在は小規模な事務所を経営しております。約10年が経過して30名ほどの所帯となりましたが、所帯が大きくなるにつれて、労働集約型産業の難しさを感じているところです。強い事務所にするために、他の役員とともに工夫をしながら細かな改善を積み重ねています。質を落として無理な規模拡大はしたくないと考えている一方で、規模を拡大することで組織が活性化するという側面もあり、何をコントロールすべきなのか、バランスが難しいと感じています。

一方で、新たな挑戦として、事業承継にチャレンジすることにしました。家業は、福島県南相馬市での都市ガス事業を中心として、南相馬市及び相馬市にて、プロパンガス、ガソリンスタンドなどの事業を行っています。こちらは80名ほどの所帯にて現在叔父が社長を務めております。被災地企業であり、人口減少に拍車が掛かるとともに厳しい局面も想定されますが、小学校から高校まで同級の幼馴染みが私と共同経営する誘いに応じてくれました。彼は、ＭＲからガス会社の経営者への転身でしたが、本学大学院経営管理研究科を昨年3月に無事卒業し、4月より専務取締役として勤務してもらえることとなりました。私も現地に頻繁に足を運びながら、まだ彼とともに勉強している身ですが、創業60年弱の会社で、環境の急激な変化に対応することの難しさや、慣習や文化を変えていこうとした場合の周囲との軋轢などを直に感じています。経営以前に、しっかりと運営することに思ったより時間がかかりそうで、事業承継の難しさを改めて感じているところです。早くこのフェーズから脱却しなければと焦ることもしばしばあります。

これまでのコンサルタントとしての立ち位置と異なりより前線で、また違うストレスを感じながらの日々ではありますが、このような二足の草鞋が許されることも、会計事務所でもガス会社でも一緒に考え、一緒に動いてくれる仲間達のおかげと、改めて人の縁に感謝しています。

最後になりましたが、平成29年公認会計士試験合格者の皆様方の入会を心よりお祝い申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

公認会計士三田会
副会長
米田　恵美
平成18年経済学部卒

会計士って何だろう？

年明け早々の執筆依頼。随分と変わり種になってしまった私で大丈夫だろうか。大学時代から約9年働いた監査法人を飛び出したのが2013年頃。監査の仕事に意義を感じていたし、自治体系の仕事も、IFRSといった会計の最前線の議論も結構好きだった。だが当時の私には、経営者たちの人を育てたい、風土を変えたいという想いに応えるだけの引き出しはなく、これでは伴走者になれないという危機感があった。加えて所属していた組織に対しても、業界に対しても、様々な思いがあった。

どうしたら人と組織が変わるのか。組織開発の仕事に本腰入れて取り組んできたここ数年。組織開発に関しては、会計士のような資格もなければ、文献やビジネスモデルも少なく、学術を紐解きながらのコンテンツづくりに随分苦労した。並行して、保育士取得プロセスを通じて心理学、社会福祉制度全体像を学び、地域医療の現場で地域課題のファクトを集めてきた。この経験のお陰で生態系の理解が深まり「なぜ社会はこうなのだろうか。どうしたらより良く出来るだろうか。」という、高校時代からの問いの答えに1歩近づくことが出来た。今は経営者のコーチングから風土を含めた法人改革、ビジョン策定から戦略立案、ブランディング、人材育成など幅広い仕事に従事している。仕事としては、いわゆる会計士業からは遠くなってしまったものの、アイデンティティは今も会計士にあると思っている。監査で培われたのは、物事の本質を掴む力、聴く力じゃないだろうか。

答えのない世界で、道なき道を進む時、拠り所になるのは自分の哲学だ。例えば、私は仕事を選ぶ時、【相手に提供できる価値】と【社会的意義＋自己の成長＋報酬】のバランスで決めてきた。他人の価値基準や大量の情報、時々のブームに流されるのではなく、自分がどう生きたいかを考える。目指したい社会の姿があるから、まだまだ進化したい。これからもこのスタンスは変わらないだろう。好き勝手生きてきた私が、縁あって同じような夢を見る経営者や仲間たちと一緒に時間を過ごすことが出来るようになったのは、本当に有難いことだ。

はぐれ会計士としてのエピソードはただの１サンプル。色んなキャリアの形があっていいと思う。会計士の強みを何に使いたいか、何と組み合わせたいか。どんな人生を歩みたいか。人の価値観に合わせて真似する必要はない。王道の会計士を行く人もいれば、そうでない人もいていい。立派な事を言わなくても、どんな小さな仕事でも、自分の人生を生きているという感覚のある人は輝いているように思う。変化が早い時代。どうか若い人たちには、自分の領域を勝手に決めて縮こまらないで欲しい。自分で自分の可能性を潰してしまうのは勿体ないから。

そもそも会計士って何だろう？その定義すらリフレームできるような人が出てきたら面白いなぁと思う。かつて私が、ある先輩のエピソードを見て勇気づけられたように、もしこの記事が誰かにとって役に立てれば嬉しい限りだ。この公認会計士三田会から、素敵な会計士が輩出されるのをこれからも楽しみにしている。

公認会計士三田会
新人世話人
芦川　昇平
平成24年経済学部卒

公認会計士としての未来

皆様、初めまして。この度新人世話人を拝命いたしました、芦川昇平と申します。

この度はこのような貴重な機会をいただき大変光栄に思います。僭越ではございますが、簡単な自己紹介と今後の抱負を述べたいと存じます。

私は慶應義塾高等学校に入学いたしました。いわゆる「塾高」と呼ばれる慶應義塾高等学校では、非常に濃い時間を過ごしました。あの日吉での日々を共有した友人たち、先生方は今の私にとって、とても大切な財産となっています。

その後、慶応義塾大学経済学部に進学。大学時代は、将来公認会計士を目指すとは思ってもおらず、ゼミナール活動に励むなど、日吉と三田で学生生活を過ごしておりました。卒業後はバイオベンチャー企業に就職し、主に営業や商品開発に従事いたしました。しかし、会社の上場を契機に私も新しいことに挑戦したくなり、公認会計士を目指すことを決断。そして、現在に至ります。

私は、公認会計士として、やっと1年目を終えたところです。この先続いていく、「公認会計士としての道」は現在ではまだはっきりとした道のりではございません。もちろん、そこには希望もあり、不安に思うことも多々ございます。しかし、公認会計士として、その道を歩まれた諸先輩方が公認会計士三田会に大勢いらっしゃるという事実は、私にとって大変励みとなり、本当に心強く感じる次第です。

公認会計士として、1年働いてみて感じた率直な感想としましては、「プロフェッショナルさ」が求められる職業であるということです。クライアントの方々も、私の年次などは関係なく、一人の会計のプロとして接してきます。そのため、求められた質問に答える際にも、その責任の大きさを感じるとともに、とてもやりがいを感じました。

今後、公認会計士に求められる社会からの期待も、その時代によって変化していくかもしれません。しかし、1人のプロフェッショナルとして、クライアントが求める期待に対して、責任をもってその職務を果たしていくことは不変な姿勢であると感じます。私もまだ駆け出しの身ではございますが、公認会計士として、また、慶応義塾出身者としてその名に恥じぬように、精一杯研鑽を積んでいきたく存じます。

最後になりますが、日頃よりお世話になっている三田会の皆様、先輩方に厚く御礼申し上げます。また、会報をお読みの皆様が末永く健康で、益々のご健勝、ご活躍されることを心よりお祈りいたします。

公認会計士三田会
新人世話人
古作　祐真
平成29年経済学部卒

新たな世界で感じていること

公認会計士三田会の皆様、こんにちは。平成29年に経済学部を卒業した、古作祐真（こさくゆうま）と申します。自己紹介をしますと、私は幼少期から中学卒業までアメリカとシンガポールで過ごし、日本に帰国後、自然豊かな慶應義塾湘南藤沢で高校3年間を過ごしました。高校卒業時に公認会計士に興味を持ち、大学入学と同時に資格の勉強を開始、その後、2015年8月に試験に無事合格し、卒業と同時にあずさ監査法人の国際事業部に入所致しました。

公認会計士の可能性

会計士業界の一員となり約2年が経ちますが、現在、会計士に関する様々な活動に従事させて頂いております。準会員会の幹事として全国の会計士の方々と交流し、起業した会計士や海外で活躍されている現地会計士の方々へのインタビューも行いました。監査法人内ではリクルート活動に深く携わり、多くのベテラン会計士の方々のお話を耳にする機会にも恵まれました。その度に、公認会計士の将来の選択肢の多さと、その活躍の幅の広さを実感しています。

ですが、それと同時に、プロとして働くことの難しさも感じております。公認会計士の肩書を持って仕事をするということは、一人の“専門家”として見られるため、クライアントの方や一般の方からの期待には100%、もしくはそれ以上応える責務を背負うことを意味します。そのため会計士試験程度の知識では全く足らず、日々、自己研鑽が必要であると強く感じております。

一億総活躍社会実現に向けた取組みの一環である「働き方改革」が多くの企業で導入され、監査法人内での業務は徐々に削減されています。非効率を省くことは非常に良い傾向にあると思いますが、同時に、自由に使える時間が増えた分、同世代間の“成長の格差”が拡大し始めるとも考えています。新しくできたこの“時間”をどのように有効活用するかが、今後の自分の成長曲線に大きく影響すると感じております。

逆算する視点

慶應にいた学生時代、部活や会計士試験を通じて学んだことが1つあります。それは「ゴールからの逆算」する視点です。試験勉強においては、短期間での合格を目指すため、本番（ゴール）で出題される問題は重点的に勉強し、反対に出にくい問題については基礎のみを抑え、“重要性”を常に意識しました。高校時代に勤しんだ弓術でも同じことを学びました。弓術には射法八節（足踏み→胴造り→弓構え→打起し→引分け→会→離れ→残心）という基本ルールがあります。これを正しく行えば、「正射必中」との言葉通り、必ず的に矢が中るようになります。正しい射をするためには、まず会でどのように持ち、離れでどのような体勢であるべきか（ゴール）を確認し、そこから引分けや弓構えでしなければならない体勢を作り出していきます。

学生時代に学んだ貴重な教訓を、今後の会計士人生に活かし、常に自己研鑽に勤しみ、日々成長していきたいと考えております。三田会の皆様には、今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い申し上げます。

公認会計士三田会
新人世話人
上田　真士
平成29年商学部卒

公認会計士としての1年を終えて

皆様、はじめまして。平成29年度商学部卒の上田真士と申します。この度は本会報に寄稿させていただく機会を頂戴し、大変光栄に思っております。

私は学生時代に永見尊教授のゼミナールにて監査論及びコーポレートガバナンスを学び、現在は有限責任監査法人トーマツにて主にIFRS監査やIPO支援業務に従事しております。

今回私は監査法人に勤務して感じたことを2点記していきたいと思います。

まず1点目は我々公認会計士が身を置いている会計という狭い領域について、日々変化しているということです。もちろん会計士試験で出題されるような既存の会計基準について理解することも重要ですし、我々に求められる知識であることは間違いありません。しかし2017年に公表された収益認識に関する会計基準(案)等の既存の会計基準のアップデートや、IFRS基準等といった新しい会計領域といった多くの情報にこの1年で触れました。特に新しい基準を適用するときは監査上においても重要な論点となることが多く、常日頃の自己研鑽の重要性を感じました。

2点目は多様なビジネスを理解することも会計士には求められるということです。これは既存のビジネスのみならず、特に我々が普段身近には感じにくいであろうB to Bのビジネスモデルや、フィンテック事業等の新興ビジネスについても理解が求められます。これは多種多様な業界に触れられる会計士ならではの強みである一方で、正しく理解することが監査においても重要であると実感しました。

これら2点に共通して思うことは、これらの新しい分野・領域に対して理解し、プロフェッショナルとしての判断が下せるようになる必要があるということです。これは単に座学のみで得られるものではなく、多くの経験を積む必要があることを日々の業務を通じて痛感しました。今後ともプロフェッショナルとしての自覚を持ち日々精進してまいりたいと考えております。

最後になりましたが、三田会の諸先輩方や会の運営・会報の編集等にご尽力いただいている事務局の皆様のお力添えにて、ご挨拶させていただくことができました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

今後とも皆様方からのご指導ご鞭撻のほどを賜りたく存じますと共に、皆様の更なるご活躍・ご健勝をお祈りして結びとさせていただきます。

公認会計士三田会
新人世話人
渡邉　紘子
平成29年法学部卒

会計士三田会の一員として

初めまして、平成28年論文式試験に合格しました渡邉紘子と申します。この度はこのような貴重な機会を頂き大変光栄です。

私は平成25年に憧れであった慶應義塾大学の法学部法律学科に入学しました。入学してすぐ法律や吹奏楽のサークルに入っていましたが、クラスには司法試験の勉強をしている仲間も多い中でこのまま何となく大学を卒業していくことに不安を感じていました。そこで何か資格の勉強を始めようと思い、高校生の頃よりお金の動きに興味があったため1年生の夏に公認会計士試験の勉強を始めました。会計士試験の勉強は先も長く苦しく感じた時もありましたが、公認会計士試験合格者が一番多い慶應義塾に在学中の勉強であったため同じ目標に向かって切磋琢磨する仲間と共に過ごす中で自分も頑張りたいと刺激を受けました。

4月にPwCあらた有限責任監査法人に入所して以降、年次や経験に関わらずプロとしての知識や行動が求められる世界であることを改めて実感しました。社会人としても会計士としてもまだまだキャリアは浅いですが、クライアントや外部から見れば会計士として見られているため、経験が浅いことを言い訳にせず、日々勉強していきたいと思います。現在は資産運用部門に所属しており、変化の大きい業界に関与する中で時代の変化に対応できるようさらに精進していきたいと考えております。また合格後三田会のイベントに参加する中で、幅広い年代の方が大勢参加されている光景を見て慶應の絆を感じ、卒業生であることを誇りに感じます。色々な方の支えがあってこれまで歩んで来ることが出来、一人の力では実現出来ないことも多くの人が集まることで大きな力が生まれることも多いため、今後もこの絆を大切に守っていきたいと思います。職場にも三田会にも新たに入所・入会される方も多くいるため、今後は自分が受けた恩恵を後輩にも還元できるよう、働きやすく親しみやすい環境づくりに少しでも貢献していきたいと思います。

最後に、何十年後かに論文式試験に合格した時を振り返った際、あの時が最高潮ではなくスタート地点に過ぎなかったと感じることの出来るよう、今後も精進して参りたいと思いますのでご指導ご鞭撻の程どうぞ宜しくお願い致します。

公認会計士三田会
新人世話人
大津　青葉
平成29年法学部卒

公認会計士三田会の皆様へ

初めまして。昨年度法学部政治学科を卒業いたしました大津青葉と申します。この度はこのような歴史ある会報に寄稿する機会を頂き、大変光栄でございます。

卒業後は新日本有限責任監査法人にて金融事業部の大手上場会社の監査に従事しております。プライベートでは休みを利用して旅行に行くほか、幼少より続けている野球を法人にて続けており、先日は監査法人対抗戦に出場するなど充実した毎日を送っております。

私が公認会計士を目指したきっかけを与えてくださったのは、慶應で出会った先輩方でした。高校の部活引退後すぐに大学の野球サークルに参加していた時、数人の会計士の先輩方に出会いました。私はその先輩方に憧れを抱き、気がつくと予備校の教室にて部活の同期と講師の説明を聞いていました。その説明を聞く中で会計士の魅力に気づき、私もこうなりたい!やろう!と親に頭を下げるまでにそう時間はかかりませんでした。

会計士の勉強を始めることを決めるまでは早かったものの、「言うは易し行うは難し」。最終的には私の塾高の部活同期に4人の試験合格者がいる中、私だけ落ち続け後輩にまで抜かれるという屈辱的な状況に陥ってしまいました。

しかし、私には私の事を気にかけ続けてくれる仲間がいました。忘れられないのは最後の短答試験前日。私は彼らから一通の手紙をもらいました。彼らは皆会計士試験を終え楽しく遊んでいた時期に、それぞれの思いを込めた直筆の手紙を自習室の私の机のところまで持ってきてくれたのです。論文試験が終わった時には打ち上げ会場まで駆けつけ、そのまま朝まで飲み明かした仲間。そんな彼らに支えられ私はなんとか会計士試験に合格する事が出来ました。彼らがこの文章を読んでくれているかはわかりませんが、感謝の気持ちに溢れています。

会計士三田会は特に人数が多く人脈が凄い、慶應の仲間が助けてくれるということを度々伺いますが、まさしくその通りだと思います。先日の三田会の飲み会に伺った際には、いつも法人の一番前でお話しているような方が私の隣で共に酒を飲んでいるという状況に巡りあいました。

私は、そんな素敵な方々の三田会の一員となれたことを誇りに思うと共に今後の皆様のさらなるご活躍を祈念いたしまして結びとさせていただきます。

公認会計士三田会
新人世話人
濱田　和輝
法学部4年在学中

ワシントン大学の短期留学を通じて

会計士三田会の皆様、初めまして。昨年度より新人世話人を拝命致しました、法学部政治学科4年の濱田和輝と申します。

私は、慶応義塾志木高等学校を卒業し、大学では、公共経済学、現代中国論を中心に専攻しております。2016年の論文式試験合格後は、新日本有限責任監査法人において学生非常勤として、パブリック部門の監査業務等に従事しております。

私が会計士を目指した理由は、高校受験時に必死に勉強した一方で、入塾後は内部の環境にどこか甘え、同時に受験をする必要がない環境下で早期に資格試験を取り組む事は有用であると考えたからです。自分の専攻した学問と親和性の高いパブリック部門が存在する事が、志した当初想像しておらず、会計士業務の範疇の広さに驚くばかりでございます。

私の一年間を振り返ると、ゼミ、監査業務、大学の夏季プログラムを利用しての短期留学と密度の濃い一年を過ごしたと感じております。特に、3週間程のワシントン大学短期留学を経験し、様々な発見がありましたので、紹介させて頂きます。

まず、現地学生に「日本はどのような国か」というシンプルながら、非常に難しい質問を度々受けた事です。国際的な価値観と比較した事もなく、考えた事もなかった私は、最低限の教養の一部として、各国と比較するための物差しとなる自分の国自体を知る必要があると痛感致しました。

次に、シアトルのEYの事務所に足を運んだ事です。企業活動の国際化・多角化という言葉に、しっくりと来ていなかった私にとって、実際に自分の目で確認できた事で、会計士の活躍の場は非常に広く、自分の所属している監査法人もグローバル規模で展開しているという実感が湧きました。

加えて、異文化体験、持続可能な社会についてのグループワーク研究、英語スキルに秀でたプログラム参加者との交流で得た刺激等も、大切な財産だと感じております。

私の所属するパブリック部門は、国内業務がほとんどです。しかし、今年は中国との関係の改善に伴う官民の相互交流やTPPの発行の本格化といったグローバルな動きが活発化する兆しが顕著に見られます。このような国際的潮流に伴い、近い将来、公会計部門も公用語である英語を始めとする国際業務を行う機会が増えると予見、期待しております。留学の経験や政治学科で培った政治学的知見を将来的に応用する事が出来ればと思っております。

今年から常勤職員になり責任も一段と増します。監査業務等を通じて公共の利益に資する事が出来るように微力ながら貢献していく所存です。早く一人前のプロとして認められる士（サムライ）になれるよう精進して参ります。

最後になりましたが、三田会所属の全ての先生方や会の運営に当たる事務局の皆様のお力によりまして、僭越ながらこの場をお借りしてご挨拶をさせて頂く事が出来ました。心よりお礼を申しあげます。今後とも皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

公認会計士三田会
新人世話人
藤澤　大志
商学部4年在学中

会計士としてのこれまでを振り返って

はじめまして。2016年に公認会計士試験に合格し、昨年より新日本有限責任監査法人に入所致しました、藤澤大志と申します。2008年に慶應義塾中等部へ入学し、慶應義塾高等学校を経て、現在は慶應義塾大学商学部の4年生として大学生活を送りつつ学生非常勤として公会計等の監査業務に従事しております。

私が公認会計士を目指し始めたきっかけの一つに高校時代の部活で会計責任者を経験したことがあります。学校から各部活への補助金や部員から集めた部費をもとに備品の管理、購入を行うといった仕事をしておりましたが、ある日過去の帳簿と部室の備品を見比べていたところ帳簿上に記録があるにも関わらず部室に見当たらない備品がありました。後に、過去に先輩が自分のために備品を購入していた事とわかり、自分の支払った部費が知らないところで不正に使われていた事にやるせない思いをした覚えがあります。高校の終わりに公認会計士という職業があることを知り、財務情報の信頼性を確保し投資家及び債権者の保護を図るというその使命を聞いた時、当時の自分の経験を思い出し公認会計士の道を志そうと思い至りました。

次に、会計士試験に合格してからの1年間で感じたことについて2点述べさせていただきます。

1つ目は公認会計士に対する周囲の期待の高さです。監査の現場を経験し、会計・監査だけでなく、税務といった幅広い知識は勿論のこと、それをクライアントに納得していただけるよう伝える対話力が必要とされることを改めて実感致しました。自分もプロフェッショナルの一員として何が求められているのか、そのために自分に何ができるのかを常に考え続け、新しいことに挑戦する心を忘れず仕事に励もうと思います。

2つ目は公認会計士三田会のつながりの強さです。就職活動の際も多くの先輩方の貴重なお話を伺う機会をいただきました。さらに、法人に入所してからも様々な場面で気にかけていただいております。これを忘れず、私も先輩方に少しでも近づけるよう日々精進していくと共に、自らも後輩へと繋ぐことで三田会にも貢献していければと思います。

最後になりましたが、私にこのようなご挨拶の機会を下さった公認会計士三田会の先生方、運営にあたって下さる事務局の皆様に心より御礼申し上げます。

まだまだ未熟ではありますが、社会に、クライアントに貢献できるよう精進して参りたいと思います。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

《公認会計士試験の状況》
連続43年間、合格者数首位を堅持

平成29年公認会計士試験は、平成29年11月17日に合格者が発表されました。

平成29年の公認会計士試験は、願書提出者総数11,032人、論文式受験者数3,306人、最終合格者数1,231人となっています。合格率は11.2%でした。このうち、慶應義塾出身の補習所登録者数は157人であり、2位早稲田の111人に46人の差で首位となりました。これにより、慶應義塾は旧試験制度から43年間連続して、公認会計士試験の王座を獲得しました。

今後も合格者数首位を目指して、塾出身の受験者の確保と合格率上昇のためのバックアップを一層強化できるよう、関係各位のご協力をお願い申し上げます。

【平成29年公認会計士試験の概要　短答式試験受験者等対象】

願書出願者総数	11,032人（前年10,256人）
短答式合格者数	1,669人（前年1,501人）
最終合格者数	1,231人（前年1,108人）
合格率	11.2%（前年10.8%）

【主な大学の合格者数（公認会計士三田会調べ）】

慶應義塾157名、早稲田111名、明治84名、中央77名、東京50名
京都48名、一橋36名、立命館31名、神戸29名、専修29名

以上

公認会計士第2次試験及び公認会計士試験　大学・年度別合格者数一覧表

公認会計士三田会調べ

年次	順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
1	昭和45年度（1970）	慶應義塾 39	中央 29	早稲田 26	東京 12	一橋 9	明治 9	神戸 8	同志社 8	横浜国立 7	関西 4
2	昭和46年度（1971）	中央 51	早稲田 38	慶応義塾 28	明治 22	横浜国立 14	東京 8	神戸 8	同志社 7	京都 5	大阪市立 4
3	昭和47年度（1972）	慶應義塾 48	中央 47	早稲田 32	明治 17	東京 13	神戸 11	京都 10	一橋 9	横浜国立 6	同志社 5
4	昭和48年度（1973）	慶應義塾 42	早稲田 30	明治 18	中央 16	一橋 11	東京 9	日本 8	法政 5	横浜国立 2	立教 1
5	昭和49年度（1974）	中央 65	慶応義塾 61	早稲田 42	明治 25	東京 10	一橋 8	横浜国立 8	法政 7	立教 5	–
6	昭和50年度（1975）	慶應義塾 32	早稲田 22	中央 16	明治 16	東京 9	日本 6	法政 5	一橋 3	–	–
7	昭和51年度（1976）	慶應義塾 50	早稲田 44	中央 29	明治 28	一橋 14	日本 8	法政 6	横浜国立 6	立教 6	東京 5
8	昭和52年度（1977）	慶應義塾 45	早稲田 44	明治 30	中央 26	一橋 13	日本 7	東京 6	法政 6	立教 6	横浜国立 5
9	昭和53年度（1978）	慶應義塾 39	早稲田 37	中央 34	明治 13	一橋 6	法政 6	東京 5	横浜国立 5	立教 3	日本 2
10	昭和54年度（1979）	慶應義塾 36	早稲田 29	中央 23	明治 14	一橋 9	法政 8	東京 5	横浜国立 5	立教 5	日本 5
11	昭和55年度（1980）	慶應義塾 30	早稲田 30	中央 27	明治 17	一橋 9	横浜国立 8	法政 5	東京 3	立教 3	–
12	昭和56年度（1981）	慶應義塾 26	早稲田 24	中央 20	明治 13	一橋 10	横浜国立 7	東京 6	法政 6	日本 3	立教 2
13	昭和57年度（1982）	慶應義塾 26	早稲田 18	明治 16	横浜国立 14	中央 11	一橋 8	東京 5	法政 4	立教 4	日本 1
14	昭和58年度（1983）	慶應義塾 39	早稲田 34	中央 20	明治 19	横浜国立 9	法政 8	一橋 8	東京 5	立教 5	日本 2
15	昭和59年度（1984）	慶應義塾 54	早稲田 40	中央 27	明治 20	一橋 12	横浜国立 11	東京 8	法政 6	日本 6	立教 3
16	昭和60年度（1985）	慶應義塾 53	早稲田 36	中央 21	明治 19	一橋 13	法政 12	横浜国立 10	日本 9	東京 9	立教 2
17	昭和61年度（1986）	慶應義塾 63	早稲田 56	中央 40	明治 28	一橋 12	横浜国立 12	東京 14	法政 13	日本 14	立教 4
18	昭和62年度（1987）	慶應義塾 68	早稲田 49	中央 36	明治 27	一橋 15	横浜国立 15	東京 13	法政 7	日本 7	立教 5
19	昭和63年度（1988）	慶應義塾 68	早稲田 45	中央 38	明治 23	一橋 18	東京 13	法政 13	横浜国立 10	日本 6	立教 2
20	平成元年度（1989）	慶應義塾 108	早稲田 67	中央 35	明治 35	東京 26	一橋 18	法政 12	立教 12	日本 11	横浜国立 9
21	平成2年度（1990）	慶應義塾 111	早稲田 78	中央 46	明治 36	一橋 24	東京 21	横浜国立 18	法政 15	立教 9	日本 8
22	平成3年度（1991）	慶應義塾 108	早稲田 101	中央 50	明治 45	一橋 32	東京 28	横浜国立 14	法政 10	日本 8	立教 11
23	平成4年度（1992）	慶應義塾 126	早稲田 110	一橋 46	中央 41	東京 40	明治 36	法政 24	横浜国立 19	立教 14	日本 5
24	平成5年度（1993）	慶應義塾 109	早稲田 98	中央 46	東京 45	一橋 36	明治 32	法政 13	横浜国立 19	立教 8	日本 15
25	平成6年度（1994）	慶應義塾 140	早稲田 102	東京 57	一橋 37	中央 29	明治 27	横浜国立 19	法政 14	立教 10	日本 4
26	平成7年度（1995）	慶應義塾 134	早稲田 134	中央 41	東京 39	一橋 27	明治 22	横浜国立 15	法政 11	日本 8	立教 8
27	平成8年度（1996）	慶應義塾 115	早稲田 95	中央 39	一橋 38	東京 34	明治 23	横浜国立 22	法政 14	日本 11	立教 4
28	平成9年度（1997）	慶應義塾 115	早稲田 85	中央 38	東京 33	一橋 26	明治 24	横浜国立 19	法政 14	立教 12	日本 8
29	平成10年度（1998）	慶應義塾 119	早稲田 97	中央 34	東京 29	明治 28	一橋 21	横浜国立 14	法政 13	日本 12	立教 9
30	平成11年度（1999）	慶應義塾 133	早稲田 88	中央 47	東京 47	一橋 35	明治 27	法政 23	横浜国立 21	日本 12	立教 11
31	平成12年度（2000）	慶應義塾 136	早稲田 90	中央 60	東京 50	一橋 35	明治 35	法政 23	立教 18	横浜国立 16	日本 13
32	平成13年度（2001）	慶應義塾 155	早稲田 134	東京 68	中央 59	一橋 47	明治 42	横浜国立 22	日本 13	法政 11	立教 11
33	平成14年度（2002）	慶應義塾 183	早稲田 140	中央 94	東京 75	一橋 54	明治 39	横浜国立 23	法政 22	立教 21	日本 16
34	平成15年度（2003）	慶應義塾 228	早稲田 152	東京 78	中央 76	一橋 71	京都 49	同志社 48	神戸 47	明治 45	大阪 37
35	平成16年度（2004）	慶應義塾 208	早稲田 153	東京 93	中央 76	神戸 62	明治 60	同志社 56	一橋 56	京都 50	立命館 40
36	平成17年度（2005）	慶應義塾 209	早稲田 159	中央 106	東京 61	一橋 51	同志社 48	神戸 43	明治 40	関西学院 40	京都 37
37	平成18年度（2006）	慶應義塾 224	早稲田 146	東京 73	一橋 69	中央 64	明治 55	同志社 49	京都 48	神戸 38	関西学院 35
38	平成19年度（2007）	慶應義塾 411	早稲田 293	中央 150	明治 105	神戸 105	同志社 102	東京 99	一橋 94	京都 73	立命館 71
39	平成20年度（2008）	慶應義塾 375	早稲田 307	中央 160	東京 114	明治 110	同志社 102	一橋 93	立命館 85	神戸 83	京都 82
40	平成21年度（2009）	慶應義塾 258	早稲田 247	中央 159	東京 84	明治 72	一橋 56	関西学院 56	神戸 52	同志社 52	法政 49
41	平成22年度（2010）	慶應義塾 251	早稲田 221	中央 152	明治 98	東京 67	同志社 62	立命館 57	神戸 49	関西学院 46	京都 45
42	平成23年度（2011）	慶應義塾 210	早稲田 169	中央 96	明治 83	立命館 52	京都 47	一橋 46	東京 44	同志社 38	関西学院 36
43	平成24年度（2012）	慶應義塾 161	早稲田 109	中央 99	明治 63	同志社 49	法政 38	立命館 30	神戸 29	青山学院 29	東京 28
44	平成25年度（2013）	慶應義塾 121	早稲田 93	中央 77	明治 68	同志社 49	神戸 36	東京 33	関西学院 32	京都 31	青山学院 立命館 26
45	平成26年度（2014）	慶應義塾 120	早稲田 94	中央 87	明治 69	同志社 43	立命館 29	関西 29	関西学院 28	法政 27	神戸 27
46	平成27年度（2015）	慶應義塾 123	早稲田 91	中央 64	明治 56	同志社 33	関西 29	関西学院 28	神戸 28	東京 23	専修 22
47	平成28年度（2016）	慶應義塾 139	早稲田 96	中央 96	明治 72	東京 36	同志社 33	立命館 29	関西学院 27	法政 27	神戸 26
48	平成29年度（2017）	慶應義塾 157	早稲田 111	明治 84	中央 77	東京 50	京都 48	一橋 36	立命館 31	神戸 29	専修 29

第41期総会

平成29年3月28日午後6時から公認会計士三田会第41期総会を開催しました。第41期の事業報告、会計報告を行い、第42期事業計画及び予算を承認しました。

また、任期満了に伴い、新会長として池上玄君（S52卒）が選出され、新幹事選任では福井拓志君（H23卒）が異議なく選任されました。

新人歓迎会

総会に引き続き、平成29年新人歓迎会を開催しました。

慶應義塾大学商学部長榊原研互教授、経済学部長中村慎助教授、商学部教授永見尊教授、同園田智昭教授、同友岡賛教授、同髙久隆太教授、同深尾光洋教授をお迎えして、平成28年合格者をお祝いしました。

早慶戦ゴルフ

平成29年9月16日に茨城ゴルフ倶楽部でゴルフ早慶戦に出陣しました。

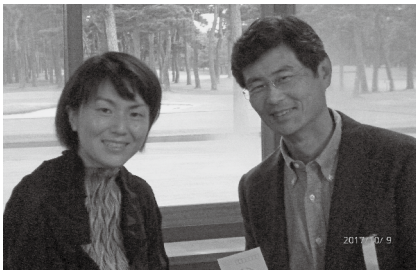
楠美雅堂君が優勝して、慶應の力を見せつけました。しかし、早稲田の厚い選手層が、2位から5位を独占して、チーム戦は敗退しました。これで5年連続の負けです。次の奮起を期待します。ちなみに、平成29年の大学野球部早慶戦は、慶應から見て、春は2勝1敗リーグ準優勝、秋は2連勝でリーグ優勝を果たしています。我々も頑張りましょう。

大学対抗ゴルフ十月会

平成29年10月9日に第30回十月会が茨城ゴルフ倶楽部で開催されました。

前年度優勝で、栄誉ある幹事校として臨んだ第30回大学対抗戦でした。運営疲れからか、慶應の選手が総崩れしてしまいました。優勝は早稲田でした。

表彰式では、大会の創設当初からの先輩方からのお話をいただき、長い歴史と伝統を改めて認識しました。



三田会ゴルフコンペ

平成29年12月29日に三田会ゴルフコンペがレイクウッドゴルフクラブで開催されました。年末に行うようになりました、三田会ゴルフコンペです。

優勝は、実力者小見山満君でした。最近躍進めざましい加藤達也君が準優勝となりました。グロスでは、エース増田航君がアウトで33の驚異的なスコアで回りました。この調子を対外試合でも発揮していただきたいと思います。

秋季研修会

執筆者：池田由範（平成11年商学部卒）

本年度公認会計士三田会の実行委員を務めております、PwCあらた有限責任監査法人の池田由範と申します。平成29年10月12日（木）、慶應大学三田校舎北館ホールに古川亨先生（慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科教授、日本マイクロソフト（株）初代社長、米国マイクロソフト元バイスプレジデント）をお迎えし、「ビルゲイツと過ごした20年の経験、米国における起業事例」をテーマにご講演を頂戴いたしました。ここではその概要と私の感じた事をご紹介したいと思います。

1. プレゼンの極意

古川先生は冒頭に記した素晴らしいご経歴のため、拝聴するだけでも大変恐縮しておりましたが、非常に気さくでお優しく、笑い話も含めてお話をされており、会場には笑い声が起きる事も頻繁にあり、いつの間にかお話に引き込まれておりました。

ご講演の冒頭では、「一つお土産を持って帰って欲しい」と、パワーポイントスライドショーでのショートカット（「B」でブラックアウト等）をご紹介され、よく言われる「つかみが大事」というプレゼンの極意を聴衆の一人として体感でき、大変リラックスした状態でお話に耳を傾ける事ができました。以後私も折に触れ利用させて頂いております。

2. 先生のご経歴と気概

古川先生は、大学中退後米国での遊学中に、パーソナルコンピューターに感銘を受け、帰国後にアスキーにご入社、その後、先生が32歳の1986年には日本マイクロソフトに移られ初代社長に就任されています。

その経緯について先生は、「高校から大学に入る際に三浪しているため、既存職種では三周遅れでトップに立てない。トップに立つならば誰も手を付けていない事をやる。」と仰っており、その気概やバイタリティに大変感銘を受け、自分自身の器の小ささをあらためて感じ、気持ちが引き締まったのをよく覚えております。

3. ビルゲイツとの20年間

米国マイクロソフト、日本マイクロソフトにおいて、ビルゲイツと共にされた20年を振り返り、ビルゲイツの仕事の進め方等を実体験に基づいてご紹介してくださいました。

① スピード、納得および素直さ
- ビルゲイツは、自身が納得できるまで検討材料の提供を周りに求め、細かい点も含めて多角的に物事を検討し、非常に素早く判断を実施
- また、部下に対して厳しい一面がありながらも、相手の考えが正しいと思った時には、大人数の会議の前でも素直に謝り判断を訂正するなど非常にフェア

② アイディアの積極登用と権限移譲（オーナーシップ）
- 従業員の出した良いアイディアは、当該従業員の年齢等関係なく積極的に採用
- アイディアを出した従業員に多くの権限を委譲。オーナーシップを与え、アイディア実践に必要な資源（カネ・ヒト等）も手厚く配分し、アイディア推進を支援

③ 倫理観
- ビルゲイツ自身の個人利用に係る費用と会社の経費の明確な区分を指示
- 倫理観を重視し、企業トップとして従業員に手本となり得ない行動は自ら禁止

④　心遣い

・　先生のご退任にあたり、パーティーを主催。その際先生の御子息に、先生の功績等を称えた直筆メッセージ入りの書籍贈呈

納得した上で物事を進め、従業員の発想/考えに対して懐が広くフェアであり、倫理観を保持しながら、人の心の機微に配慮した心遣いまでするビルゲイツと、その気概とバイタリティを持って彼を傍らで支えられた古川先生という素晴らしい組み合わせだったからこそ、今日のマイクロソフトがあると、非常に納得いたしました。私自身の公認会計士としての職務遂行上も、お二人には遠く及ばないながらも、上記のような視点や考え方を少しでも保持する事が極めて重要であると強く感じました。

4. 起業と技術革新

最先端スピーカー等のデモをお見せ頂きながら、技術革新を踏まえた起業や公認会計士の関わり方についてアドバイスを頂戴しました。

・　技術が枯渇していると思われる業界においても、AI等の利用により、従来の開発の限界を超える商品が驚くべき速さで登場

・　会計ファームは、ベンチャー・キャピタルとの関わり方の支援等を、起業時から水先案内人として支援し、起業家を支えてほしい

現代は、限界と思われていた点を超えて世界が変わっていく劇的な変革の時代だと感じています。そのような時代の社会に貢献するためには、自分自身が絶えず変革し、限界点を超えて成長していく努力が重要である事をあらためて感じました。

先生がご講演中にご紹介くださった言葉として、「The best way to predict the future is to invent it」というアラン・ケイの言葉があります。これは、「未来を予測する最善の方法は、それを発明してしまう事だ」という意味で、「未来については外野席からヤジを飛ばすのではなく、フィールドに降りてチャレンジする方がよっぽど楽しい」と仰っていました。

公認会計士業界も、大きく変革を遂げる社会からの種々の期待や、AIを始めとする技術の進歩等により、その未来を推しはかる事が困難な時代です。だからこそ、私自身、「国民経済の健全な発展に寄与する」という使命を全うすべく、先生の様な気概を胸に、「外野席からヤジを飛ばすのではなく、国民経済というフィールドでの未来を創る担い手の一人」として、公認会計士業界や社会の未来に貢献してまいりたい、そう強く感じました。

古川先生、ご多忙の中貴重なご講演どうもありがとうございました。

役員一覧

役職	卒業年度	氏名
会長	S52年卒	池上 玄
副会長	S53年卒	小坂 義人
副会長	S59年卒	大塚 敏弘
副会長	S61年卒	関川 正
副会長	H8年卒	吉川 高史
副会長	H18年卒	米田 恵美
幹事	S47年卒	河原 茂晴
幹事	S49年卒	梶川 融
幹事	S48年卒	桃崎 有治
幹事	S51年卒	新田 誠
幹事	S52年卒	小見山 満
幹事	S52年卒	佐藤 行正
幹事	S52年卒	山崎 博行
幹事	S53年卒	沼田 徹
幹事	S53年卒	高津 靖史
幹事	S54年卒	柳澤 義一
幹事	S55年卒	森 公高
幹事	S55年卒	永田 高士
幹事	S55年卒	澤田 尚史
幹事	S55年卒	関口 弘和
幹事	S56年卒	金井 沢治
幹事	S57年卒	篠原 真
幹事	S58年卒	上林 三子雄
幹事	S58年卒	山田 雅弘
幹事	S59年卒	澤口 雅昭
幹事	S59年卒	志村 さやか
幹事	S60年卒	渡辺 伸啓
幹事	S60年卒	古杉 裕亮
幹事	S60年卒	山本 美晃
幹事	S61年卒	海野 隆義
幹事	S61年卒	今村 友妃子
幹事	S61年卒	加藤 達也
幹事	S62年卒	安藤 武
幹事	S62年卒	要石 博之
幹事	S62年卒	上倉 要介
幹事	S62年卒	若林 健太
幹事	S62年卒	尾立 源幸
幹事	S62年卒	川上 尚志
幹事	S63年卒	椎名 弘
幹事	S63年卒	佐藤 裕紀
幹事	S63年卒	田中 耕一郎
幹事	S63年卒	岡田 貴子
幹事	S63年卒	岡谷 直人
幹事	S63年卒	中村 元彦
幹事	S63年卒	新井 達哉
幹事	H1年卒	菅野 雅子
幹事	H1年卒	吉田 慶太
幹事	H1年卒	北澄 和也
幹事	H2年卒	高橋 克典
幹事	H2年卒	藤本 貴子
幹事	H3年卒	志賀 恭子
幹事	H3年卒	鈴木 真紀江
幹事	H5年卒	荒張 健
幹事	H5年卒	百瀬 和政
幹事	H5年卒	古内 和明
幹事	H5年卒	山邉 道明
幹事	H6年卒	菅谷 圭子
幹事	H6年卒	松本 憲明
幹事	H6年卒	御厨 健太郎
幹事	H6年卒	関 浩一郎
幹事	H6年卒	石原 宏司
幹事	H6年卒	曽宮 啓介
幹事	H6年卒	松浦 竜人
幹事	H7年卒	森田 健司
幹事	H7年卒	森谷 健
幹事	H7年卒	荒谷 繁
幹事	H7年卒	北村 崇
幹事	H7年卒	秋山 修一郎
幹事	H8年卒	長尾 宗尚
幹事	H8年卒	高山 雄大
幹事	H8年卒	綿貫 敦文
幹事	H8年卒	高木 修
幹事	H8年卒	淡島 國和
幹事	H9年卒	古賀 智彦
幹事	H9年卒	篠崎 友宏
幹事	H9年卒	三根 大介
幹事	H9年卒	廣野 清志
幹事	H10年卒	江幡 淳
幹事	H10年卒	間宮 光健
幹事	H12年卒	緒方 浩一

役職	卒業年度	氏名
幹事	H12年卒	三好 巧
幹事	H13年卒	齊藤 慶三
幹事	H13年卒	本多 守
幹事	H13年卒	国見 健介
幹事	H14年卒	小松 浩幸
幹事	H14年卒	高山 大輔
幹事	H14年卒	黒澤 久美子
幹事	H15年卒	根建 栄
幹事	H15年卒	吉田 勇太
幹事	H15年卒	荻野 尚武
幹事	H15年卒	小川 雅嗣
幹事	H15年卒	野池 毅
幹事	H15年卒	双木 宏
幹事	H15年卒	藤本 ひかり
幹事	H15年卒	濱 貴之
幹事	H15年卒	荒井 悠己
幹事	H16年卒	和田 拓郎
幹事	H16年卒	並木 俊朗
幹事	H16年卒	門澤 麻里
幹事	H16年卒	上平 洋輔
幹事	H16年卒	新井 佑介
幹事	H16年卒	佐藤 彩子
幹事	H16年卒	英 正樹
幹事	H16年卒	齋藤 啓太郎
幹事	H16年卒	赤羽 悠二
幹事	H16年卒	杣野 慶二
幹事	H16年卒	依田 知明
幹事	H16年卒	岡田 泰治
幹事	H17年卒	門田 美由紀
幹事	H17年卒	渋佐 寿彦
幹事	H17年卒	加来 義智
幹事	H17年卒	齊藤 雄一
幹事	H17年卒	髙梨 良紀
幹事	H17年卒	渡辺 一生
幹事	H17年卒	福島 崇博
幹事	H18年卒	天野 真衣
幹事	H18年卒	清水 麻奈美
幹事	H18年卒	片山 恵
幹事	H19年卒	幡野 裕明
幹事	H20年卒	中谷 恵理子
幹事	H20年卒	清水 陽一郎
幹事	H20年卒	土井 さやか
幹事	H20年卒	山根 寿晃
幹事	H20年卒	平山 拓也
幹事	H21年卒	宮山 韓知
幹事	H21年卒	善林 優子
幹事	H21年卒	大星 宏晶
幹事	H21年卒	豊田 裕文
幹事	H22年卒	上田 彩夏
幹事	H22年卒	渡部 亮
幹事	H22年卒	澤崎 萌
幹事	H22年卒	清水 瞬
幹事	H22年卒	森田 雄太
幹事	H22年卒	川西 祐輔
幹事	H23年卒	今野 洋
幹事	H23年卒	芝 由里子
幹事	H23年卒	田中 隆寛
幹事	H23年卒	高野 阿弓
幹事	H23年卒	清水 裕文
幹事	H23年卒	奥山 健人
幹事	H23年卒	渡邊 三南子
幹事	H23年卒	津田 覚
幹事	H23年卒	坂本 修一
幹事	H23年卒	福井 拓志
幹事	H24年卒	富取 祐香
幹事	H24年卒	神原 大樹
幹事	H24年卒	徳田 華子
幹事	H24年卒	矢島 淳太郎
幹事	H24年卒	藤野 里奈
幹事	H24年卒	韮澤 一平
幹事	H24年卒	菅原 晃介
幹事	H24年卒	細野 光史
幹事	H24年卒	山本 早和美
幹事	H24年卒	荻野 創平
幹事	H24年卒	野村 孟弘
幹事	H24年卒	山内 里花子
幹事	H25年卒	田宗 千明
幹事	H25年卒	濱田 浩介
幹事	H25年卒	井上 大輔
幹事	H25年卒	近藤 祐章

役職	卒業年度	氏名
幹事	H25年卒	佐藤 佳樹
幹事	H25年卒	長野 早紀
幹事	H25年卒	山縣 奈央
幹事	H25年卒	浅見 理紗子
幹事	H25年卒	上條 有佳里
幹事	H25年卒	信田 淳
幹事	H26年卒	浦山 太貴
幹事	H26年卒	井口 蔵人
幹事	H26年卒	有馬 大騎
幹事	H26年卒	内藤 翔斗
幹事	H26年卒	福田 彩和佳
幹事	H26年卒	古川 領亮
幹事	H26年卒	副島 慎太郎
幹事	H26年卒	河合 悠子
幹事	H27年卒	吉田 康太郎
幹事	H27年卒	裵 銀珍
幹事	H28年卒	野村 航洋
幹事	H28年卒	山本 健太郎
幹事	H28年卒	大谷 晴香
幹事	H28年卒	柴田 勝浩
幹事	H29年卒	三浦 優一朗
幹事	H29年卒	清水 亮
幹事	H29年卒	鄭 善斗
幹事	H29年卒	岡村 拓門
幹事	H29年卒	島 仁美
幹事	H29年卒	井上 貴博
幹事	H29年卒	西村 英莉
幹事	H29年卒	寺谷 暢泰
幹事	H29年卒	水落 智久
幹事	H29年卒	塩谷 香乃
会計監事	S55年卒	市村 清
会計監事	H2年卒	茂木 哲也
年度世話人	S54年卒	柳澤 義一
年度世話人	H1年卒	菅野 雅子
年度世話人	H1年卒	吉田 慶太
年度世話人	H1年卒	北澄 和也
年度世話人	H21年卒	宮山 韓知
年度世話人	H21年卒	善林 優子
年度世話人	H21年卒	大星 宏晶
年度世話人	H21年卒	豊田 裕文
新人世話人	H24年卒	芦川 昇平
新人世話人	H27年卒	船越 一平
新人世話人	H27年卒	古川 拳土
新人世話人	H28年卒	川上 裕貴
新人世話人	H28年卒	大塚 悠介
新人世話人	H29年卒	古作 祐真
新人世話人	H29年卒	後藤 祥平
新人世話人	H29年卒	井手 優太朗
新人世話人	H29年卒	上田 真士
新人世話人	H29年卒	北野 友梨
新人世話人	H29年卒	小松 汐里
新人世話人	H29年卒	渡邉 紘子
新人世話人	H29年卒	大津 青葉
新人世話人	在学中	森 泰智
新人世話人	在学中	桂木 裕至
新人世話人	在学中	西崎 竜ノ介
新人世話人	在学中	石谷 麻子
新人世話人	在学中	中島 奈緒子
新人世話人	在学中	濱田 和輝
新人世話人	在学中	藤澤 大志
実行委員	H5年卒	関口 男也
実行委員	H8年卒	田近 和成
実行委員	H11年卒	池田 由範
相談役	S30年退	宇野 皓三
相談役	S36年卒	野田 晃子
相談役	S41年卒	石井 清之
相談役	S42年卒	青木 雄二
相談役	S42年卒	一法師 信武
相談役	S42年卒	杉山 美代子
相談役	S43年卒	湯佐 富治
相談役	S45年卒	山田 幸太郎
相談役	S46年卒	佐竹 正幸
相談役	S49年卒	加藤 晶春
相談役	S56年卒	後藤 順子
相談役	S51年卒	山田 辰己

公認会計士三田会・会則

制定　昭和52年 9月 1日
改正　昭和55年 1月21日
改正　昭和58年 1月10日
改正　昭和61年 1月17日
改正　平成15年 1月29日
改正　平成15年12月 4日
改正　平成20年 1月30日
改正　平成23年12月14日

第1章　総　則

（名　称）
第1条　本会は、公認会計士三田会と称する。

（目　的）
第2条　本会は、会計及び監査に関する学術の研究、会員の知識及び経験の交流、業務の協調、会員相互の親睦並びに後進の指導育成等を図ることを目的とする。

（事 務 所）
第3条　本会の事務所を、幹事会の指定する場所に置く。

（事　業）
第4条　本会は、第2条の目的を達成するため、次の事業を行う。
1、会計及び監査の実務、学術等に関する研究会、講演会等の開催
2、内外の資料の調査、研究
3、業務情報の交換
4、会報その他刊行物の発行
5、その他前各号に附帯する事業

第2章　会　員

（会　員）
第5条　慶応義塾に在学した者で、公認会計士、会計士補、これらの有資格者及び公認会計士試験合格者をもって会員とする。

第3章　役　員

（会長、副会長、幹事）
第6条　本会に、会長、副会長、幹事を置く。会長は１名とし、副会長、幹事は若干名とする。

（会計監事）
第7条　本会に、会計監事２名を置く。

（相 談 役）
第8条　本会に、相談役を置くことができる。

（幹事及び会計監事の選出並びに任期）
第9条　幹事及び会計監事は、会員のうちから定時総会において選出する。
２、幹事及び会計監事の任期は、定時総会のときから始まって、就任後第２回目の定時総会終了のときまでとする。

（会長、副会長、相談役の選任）
第10条　会長、副会長は、幹事の互選により選出する。相談役は、会長が指名する。

第4章　総　会

（総会の種類）
第11条　総会は、定時総会及び臨時総会とする。

（総会の開催）
第12条　定時総会は会計年度終了後5ケ月以内に、臨時総会は必要に応じ、幹事会の議を経て会長が招集する。

第5章　会　計

（会　費）
第13条　本会の経費は、会費、臨時会費及び寄附金をもってこれに当てる。
２、会費は、公認会計士は年額10,000円、会計士補ならびに公認会計士試験合格者は3,000円とする。なお、公認会計士のうち近年に卒業した会員に対して会費を一部減額することを認め、その取扱は幹事会にて決定する。
有資格者の会費については、これに準ずる。

（会計年度）
第14条　本会の会計年度は、毎年１月１日に始まり、１２月３１日に終わる。

第6章　会則の変更

（会則の変更）
第15条　会則の変更は、総会の決議による。

（附　則）
この会則は、昭和５２年９月１２日から施行する。

（附　則）（平成20年1月30日改正）
第5条、第12条、第13条の改正は、第31事業年度より適用する。

（附　則）（平成23年12月14日改正）
第14条の改正は、第36事業年度より適用する。

公認会計士 三田会会報【第42号】
（平成30年3月1日発行　昭和53年1月1日創刊）

編集発行：公認会計士三田会　佐藤裕紀　渋佐寿彦

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-5-1 近鉄霞が関ビル3F
佐藤裕紀公認会計士事務所内

電話：03-6852-6852　FAX：03-6852-6853
E-mail：sec@keiocpa.com

www.cpa-mitakai.net